



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本語と韓国語の役割語の対照 : 対訳作品から見る翻訳上の問題を中心に
Author(s)	鄭, 惠先
Citation	社会言語科学, 8(1), 82-92
Issue Date	2005-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43908
Type	journal article
File Information	shakgaigengo_8.pdf



研究論文

日本語と韓国語の役割語の対照

——対訳作品から見る翻訳上の問題を中心に——

鄭 惠 先 (長崎外国語大学)

本研究の目的は、日本語と韓国語の「役割語」を対照することによって、よりリアルな日韓・韓日翻訳に役立てることである。本稿では、漫画を分析対象とし、一つ目に、意識調査で見られる日本語母語話者と韓国語母語話者の意識の差について、二つ目に、対訳作品で見られる両言語の役割語の相違点について考察した。その結果、つぎの7点が明らかになった。

- 1) 韓国語に比べ日本語のほうに役割語としての文末形式が発達している。
- 2) 日本語母語話者の場合、訳本では日本語の役割語の知識が十分生かせない。
- 3) 韓国語母語話者の場合、役割語への刷り込みが弱く、翻訳による影響を強く受けない。
- 4) 対訳作品から受けるイメージは、両言語の間で必ず一致するものではない。
- 5) 日本語役割語では性別的な特徴、韓国語役割語では年齢的な特徴が表れやすい。
- 6) 日本語でも韓国語でも、方言は人物像を連想する重要な指標となる。
- 7) 時代を連想する言語形式は訳本の中で現代風に訳される傾向が多い。

キーワード: 役割語, 翻訳, イメージ, 言葉づかい, 文末形式

A Contrastive Study of Role Language in Japanese and Korean: Original and Translated Manga

JUNG Hyeseon (Nagasaki University of Foreign Studies)

The purpose of this paper is to facilitate realistic translations of Japanese-Korean and Korean-Japanese. Accordingly an attitude survey of native speakers from both countries, as well as a usage investigation of Manga (in original and translation) were conducted.

The following seven hypotheses were verified from the analysis: (1) Role language is used more in Japanese than in Korean. (2) For Japanese native speakers, knowledge about role language is not efficiently employed enough in manga translated from Korean. (3) For Korean native speakers, knowledge about role language seldom appears in Korean manga nor in translations of Japanese works. (4) Even if native speakers from either country read the same passage of original and translated manga, it is unclear whether they would gain the same impression. (5) Features of gender tend to appear in Japanese role language, whereas features of age difference tend to appear in Korean role language. (6) Both in Japanese and Korean, local dialect serves as a key factor in defining characters. (7) The distinctive flavor of historical period in a story is easily lost in the translation process.

Key words: role language, translation, impression, wording, sentence final expressions

1. 研究の目的

日韓交流が盛んになってきた近年の動きに後押しされ、出版物のみならず映画やドラマ、ニュースなどの映像物にいたるまで、両国の文化伝達の媒介体は急速に増加する傾向にある。よって、日韓・韓日

翻訳分野の活動領域はさらに広がってきており、訳の質と精度についての認識もますます重みを増してきた。

本稿では、日本語と韓国語の役割語を対照することで、日韓・韓日翻訳の質の向上、よりリアルな訳の構築のための提言としたい。従来の翻訳につ

での議論の中で、役割語についての言及はまったく行われていなかったといっても過言ではない。したがって、ここでは、日本語と韓国語の翻訳過程の中で役割語がどのように扱われているか、役割語の語彙や語法が持つ独特のイメージが果たして訳本の中でも正確に伝わっているかどうかについて、「意識調査の分析」と「対訳作品の考察」という二つの側面から述べていく。

金水敏 (2003) では、「役割語」についてつぎのように定義されている。

ある特定の言葉づかい (語彙・語法・言い回し・イントネーション等) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等) を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる時、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。 (p. 205)

さらに、金水敏 (2000) は従来多く取りあげられてきた「位相語」と「役割語」との違いについて、

位相差研究が言語の使用の「実態」の解明を基盤としているのに対し、役割語は日本語話者の知識の問題であるから、項目が似ているとしても、その内実がまったくかけ離れている場合がある。(中略) 我々は典型的な人物を現実の直接的体験から帰納するとは限らず、むしろ虚構を含めた「物語」を介して刷り込まれるのであろう。 (pp. 324-326)

と述べ、両者を区別している。

本稿では、金水氏の役割語の定義にもとづき、漫画という「物語」を分析対象として取りあげた。ちなみに、役割語的なさまざまな言語現象の中で、今回は主に「文末形式」という要素に焦点を当て、考察を進めていきたいと考える。

本稿で注目する考察内容をまとめると、以下のようである。

- 1) 役割語の知識が日本語独自のものでないとなれば¹⁾、韓国語母語話者の役割語についての知識は日本語母語話者のそれと同じ傾向を持つのだろうか。

- 2) 翻訳の過程で相手言語に加工された役割語は、本来の役割語が持つ語感やイメージを明確に伝えているのだろうか。

- 3) 日本語と韓国語の対訳作品の中で、両言語の役割語的な要素となる形式に相違点は見られないのだろうか。

以上の三つの観点から、まず、2. では日本語母語話者と韓国語母語話者に行った意識調査の内容と分析結果について述べる。つぎに、3. では漫画の対訳作品を考察対象とし、その中で見られる両言語の役割語的要素の相違点について述べる。

2. 意識調査から見る役割語に対する意識差

2.1 意識調査の概要

今回の意識調査は、2004年6月から7月の間に、10代から30代までの日本語母語話者53名と韓国語母語話者66名の計119名の被験者に行った。日本語母語話者に対する調査は、京都を中心とした関西地域と長崎を中心とした九州地域で、韓国語母語話者に対する調査は、ソウルを中心とした京畿道地域と春川を中心とした江原道地域で行った。詳細を表1に示す。

本調査の目的は、人物像のイメージとそのイメージから浮かべる言葉づかいの間での、日本語母語話者と韓国語母語話者の意識の差を調べることである。本調査では、漫画の登場人物のイラストと、それらの登場人物が漫画の中で用いている言葉づかいの例を使用した。言語別の判定者を交えての選別作業の末、最終的に選別されたイラストと言葉づかいが、表2の10種、20文である。

A~Eは日本語原作の漫画から、F~Jは韓国語原作の漫画から抜き出したイラストである。言葉づかいについては、「。」「ー」「!」「?」などの記号や日本語の漢字がな混じり文、韓国語の分かち書きな

表1 地域別被験者数の詳細

日本語母語話者	関西	40	53名
	九州	13	
韓国語母語話者	京畿道	11	66名
	江原道	55	

表2 本調査で使用した人物像と言葉づかい²⁾

原作	人物像 (イラスト)	言葉づかい	
		日本語版	韓国語版
日本語原作	A. 活発な少年 	・ついてくんな!! ・待ってたぜ	・따라오지마 ・기다렸다
	B. 上品なお嬢様 	・幼なじみですよ ・いらしてたの?	・어렸을 때부터 친한 사이예요. ・와 있었구나.
	C. 年寄りの博士 	・昔からそうじゃのー… ・辛い事もあるじゃろうが、もう少しの辛抱じゃ!	・옛날부터 그랬어. ・조금만 참거라. 힘들겠지만.
	D. インテリ医者 	・どうしますかな? ・もう一度よくお考え下さい	・어떻게 할까요? ・다시 한번 잘 생각해 보시죠.
	E. 方言話者 	・なんや, おるやないけ. ・ムチャしたらアカン!	・왜 거기 있잖어. ・그건 안돼. 나까지 위험하당께.
韓国語原作	F. 昔のお嬢様 	・失礼します ・〇〇にいわれる筋合いはありません	・실례하옵니다. ・〇〇가 상관하실 일은 아니지요.
	G. 昔のお爺さん 	・こっちにくれ ・そうかい…	・이리 좀 나오. ・오냐...
	H. 優しいおばさん 	・おかえり ・やっぱりわたしがやるわ	・어서 오너라. ・아니다. 내가 하마.
	I. 男子高校生 	・だからどーするってんだよ ・ちょっとおかしいんだよ…	・그래서 어찌자는 거냐? ・그...근데, 그게... 좀 이해가... 안 되질랑.
	J. 忘れ者のおじさん 	・結局同じものか ・明日まで決めて連絡するから	・결국 같은 종류구먼. ・내일 결정해서 알려주세요

ど、すべて原本のまま転記している。ただし、文字の網掛けは本稿にだけ付け加えたものである。これは、原作での言葉づかい選別の際に、役割語的な要素として想定し選別の基準とした言語現象の部分を示す。

各イラストにつけた題目は、今回の調査で調査者が意図した人物像で、調査の際に被験者には知らされていない。実際の質問紙では、イラストと言葉づかいを原作別に二分したあと、各10文の言葉づかいをランダムに再配置し、各イラストにふさわしいと思う言葉づかいを2文ずつ選んでもらう形式で

とった。

さらに、言葉づかいを選ぶ質問とは別に、各イラストに対する両言語母語話者のイメージを聞く質問を付け加えた。被験者に各イラストへのイメージの選択肢を提示し、複数回答してもらう形式である。提示された選択肢は、「子ども・若者・年寄り・男性・女性・高学歴・低学歴・上品・下品・都会の人・田舎の人・短気・辛抱強い・活動的・非活動的・まじめ・不まじめ」の17項目である。

日本語母語話者には日本語版の質問紙、韓国語母語話者には韓国語版の質問紙に回答してもらった。

2.2 人物像と言葉づかいに対する意識の差

まず、表2で提示した各イラストに対する両言語母語話者のイメージを、あらかじめ提示した17項目の中から選んでもらった結果、両言語母語話者の間に大きなギャップがないことがわかった。図1に、一例として「B. 上品なお嬢様」についての回答結果を折れ線グラフで示す。

日本語母語話者（凡例ではJJと記す）にもっとも多い回答は「女性、上品、都会の人」であり、これは韓国語母語話者（凡例ではKKと記す）にもっとも多い回答の3項目とまったく同じである。2本の折れ線がほぼ重なり合っていることから、両者の回答にさほど差がないことがわかる。よって、両言語母語話者ともにイラストBに「都会の上品な女性」というイメージを持ち、さらに、このイメージはイラスト選別の際に調査者が意図していた「上品なお嬢様」という人物像にほぼ一致していることも確認できた。他のイラストにおいても、細かい項目では若干差があったものの、両者の間でまったく異なるイメージを持つような例は見られなかった。

つぎに、これらのイメージに対する分析結果をもとに、各イラストに対してもっともふさわしいと思われる言葉づかいを両言語母語話者に選んでもらった結果について述べる。

両言語母語話者の各回答を、もともと漫画の中で用いられた言葉づかい—表2で示したとおりである—toに照らし合わせ、イラスト別の正解率を割り出したのが、以下の図2である。

図2では、日本語母語話者と韓国語母語話者の正解率に差が見られており、全体の正解率の平均は、日本語母語話者が70.2%、韓国語母語話者が42.8%である。イラストに対するイメージ調査では、両者の間に意識の差はほとんどなかったが、それらの人物像を言葉づかいと組み合わせる段階で明確に差が出ているのである。つまり、イラストから連想する人物像は同じでも、言葉づかいの選択では韓国語母語話者に比べ日本語母語話者がより確かな共通知識を持っているということが明らかになった。

本調査では主に文末形式に現れた役割語的な特徴

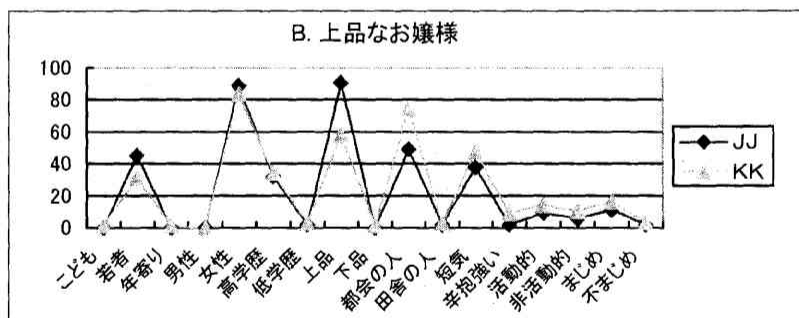


図1 イラストに対するイメージの一例

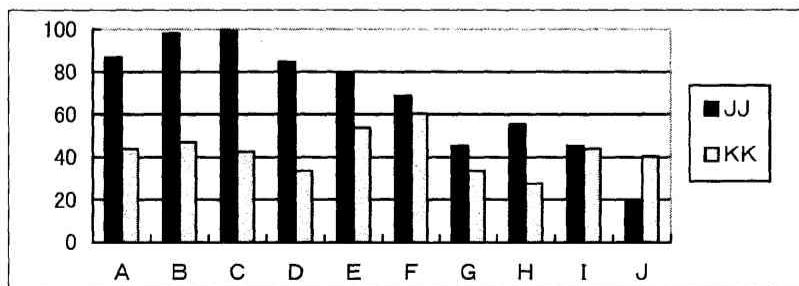


図2 イラスト別言葉づかいの正解率

を取りあげている。この結果から、韓国語母語話者に比べて日本語母語話者は、文末形式の役割語的要素により敏感であり、ひいては役割語についての知識や刷り込みの程度が高いということが予想される。

さらに細かく見ていくと、日本語母語話者の正解率は、日本語原作からのイラストのA～Eで平均89.6%だが、韓国語原作のイラストのF～Jでは平均47%であり、両者の間に非常に開きがあることがわかる。一方、韓国語母語話者の正解率はA～Eで平均44.2%、F～Jでは平均41.2%で、両者の間にそれほど開きがない。

すなわち、日本語母語話者は提示された言葉づかいが原作からのものか訳本からのものかに大きく影響を受けているのに対し、韓国語母語話者はほとんど影響を受けておらず、しかも韓国語原作のほうでの正解率がもっと低いという逆の結果となった。ちなみに、両言語母語話者の正解率の標準偏差値を調べたところ、日本語母語話者では24.8%なのに対し、韓国語母語話者では9.3%であり、この結果からも、日本語母語話者の正解率の原作別によるバラツキが激しいことは明らかである。これは、日本語母語話者の役割語についての知識が、韓国語原作の日本語訳本では十分活用できていないことを意味する。ここから、韓国語を日本語に訳する段階での日本語役割語への配慮のなさがうかがえる。

逆の立場からも同じようなことがいえる。つまり、韓国語母語話者の正解率が、原作からの言葉づかいが訳本からの言葉づかいにあまり左右されないことから、日本語を韓国語に訳する段階で日本語の役割語の特性が薄れ、原作と訳本の間に心的ギャップが生じてしまった可能性も考えられるのである。

ここで、両言語母語話者間で差が明確に表れた日本語原作からのイラストA～Eの結果をもとに、正解率の中でもっとも差がない項目ともっとも差がある項目についてふれておく。これは、3.で後述する内容とも関連が深い。

まず、A～Eで正解率にもっとも差がない項目は「方言話者(正解率差25.4%)」である。表2のイラ

ストの絵から見ると、この言葉づかいをする人物は人間の姿をしたネズミである。このことから、日本語母語話者も韓国語母語話者も、異質な人物像に方言を当てはめる傾向があることがわかる。

つぎに、A～Eで正解率にもっとも差がある項目は「年寄りの博士(正解率差56.6%)」である。このことから、日本語母語話者はいわゆる「博士語」についてのステレオタイプのイメージを持っており、韓国語母語話者に比べて役割語の知識としての刷り込みが強いことがわかる。

3. 翻訳過程における役割語の表れ方

3.1 日本語原作の対訳作品での役割語

ここでは、今回検討した漫画の対訳作品の全会話文を対象とし、主に文末形式を中心に両言語の役割語的な要素を細かく対照していく。まず、日本語原作の漫画が韓国語訳された場合、役割語においてどのような傾向が見られるかを考察する。ここでは、役割語の考察の観点として、「性別」「年齢」「方言」という三つの側面を取りあげる。

一つ目に、役割語の中の性別についての考察である。

- | | | |
|--------|-------------------------|-----|
| (1) a. | <u>いらしてたの。</u> | 「花」 |
| b. | <u>와 있었구나.</u> | 「咲」 |
| (2) a. | <u>好きなのかしら。</u> | 「花」 |
| b. | <u>좋아하나 봐.</u> | 「咲」 |
| (3) a. | <u>幼なじみですよ。</u> | 「花」 |
| b. | <u>어렸을 때부터 친한 사이예요.</u> | 「咲」 |

(1)～(3)は、すべて一人の女性の発話で、漫画の中では家柄が良くて財閥の家庭で生まれ育ったお嬢さんの設定である。日本語原作での発話を見ると、「いらしてたの」「ーかしら」「ーですよ」などの形式が、「育ちのいい女性像」につながる役割語的な要素として用いられていると考えられる。これに対し、韓国語訳本の発話では「와 있었구나」「-나 봐」「-예요」の形式が対応しているが、この言葉づかいのみで「育ちのいい女性像」を思い浮かべることは難しい。

日本語の役割語で男女差を表すもっとも顕著な指標となるのは、「人称代名詞」と「終助詞」といえる。

表3 韓国語の対者敬語法の6等級

	平叙文	疑問文	命令文	勧誘文
하소체	-ㅂ니다	-ㅂ니까	-(으)십시오	-(으)십시오
해요체	-아/어요	-아/어요	아/어요	-아/어요
하오체	-(으)오	-(으)오	-(으)오	-ㅂ읍시다
하계체	-아/어네	-아/어나, -ㄴ/는가	-아/어게	-아/어게
반말체	-아/어	-아/어	-아/어	-아/어
해라체	-ㄴ/는다	-냐, -니	-아/어라	-아/어자

※ 上へ行くほど敬意が高い。

このうち、「人称代名詞」についていえば、韓国語ではこれらに明確な男女差は認められない³⁾。上記の例から見ると、「終助詞」においても、日本語の「てよだわ言葉」のような女性専用の終助詞は韓国語で見られないことがわかる。ただし、日本語ほどの明瞭な差はないとしても、それなりの工夫は見られる。

- (4) a. そんなの うれしくないじゃんか!
「몬스타」
b. 별로 안 기쁘지 않냐? 「몬스터」

(4)は前向きで活発な少年の発話であり、(4a)では「—じゃんか」という言葉づかいが「少年」という人物像につながっていると考えられる。一方、(4b)では「-냐」という文末語尾が使われている。

ここで、韓国語の中での対者敬語法の等級について述べておく必要がある。李翊燮他(2004)では、現代韓国語で使われる対者敬語法の等級を、文末語尾の違いによって6等級としている。その内容を表3に簡単にまとめる。

(4b)で用いられている「-냐」は、表3での韓国語の対者敬語法の6等級のうちもっとも低いといわれる「해라体」の疑問語尾である。同じく「해라体」の疑問語尾として「-니」がある。この「-냐」と「-니」の2種について韓国語母語話者3人に内省調査したところ、「-냐」は男性が、「-니」は女性がよく

使う」という共通した回答が得られた。ただし、これはあくまでも「あえて性別で区別するなら」という前提の上での意識の傾向であって、実際どれほど使用率に差があるかは、さらに本格的な調査を行ってみたいと断言できない。

文末形式のほかに、性別を著しく表す言語形式に「フィラー」がある。

- (5) a. あら どうして? 「花」
b. 어머 왜? 「꽃」

(5b)の「어머」は女性専用のフィラーで、日本語の「あら」にうまくマッチしていると考えられる。しかし、フィラーにおいても、韓国語では明確な男女差が表れる形式より、以下の(6b)(7b)の「야」のように、男女の区別がなく使われる形式が多用される。一方、日本語原作の発話では、(6a)が男性の発話、(7a)が女性の発話であることがフィラーからもうかがえる。

- (6) a. おーい, まってよー! 「몬스타」
b. 야—, 어디가? 「몬스터」
(7) a. ちょっと, さがってなさい. 「몬스타」
b. 야, 비켜. 「몬스터」

以上、日本語原作の対訳作品において、役割語の中で性別がどのように表現されているかを考察した。

二つ目に、役割語の中で年齢についての考察であ

る。

- (8) a. そうじゃよ. 「モンスター」
 b. 응. 「몬스터」
 (9) a. 覚えとるか? 「コナン」
 b. 기억하고 있겠지? 「코난」

(8a)(9a)は両方とも老人の発話で、その特徴を表す「一じゃよ」「一とるか」が使われている。一方、韓国語訳本では老人の発話というイメージはまったく伝わってこない。2.の調査結果でもふれたように、日本語の役割語の中でもいわゆる「博士語」「老人語」といわれるものは、他とは異なる形式的な特徴を色濃く持っており、刷り込みの程度も強いということがわかる。

ところが、以下の例を見てみよう。

- (10) a. やめろよ 「ブラック」
 b. 관두쇼... 「블랙잭」

日本語原作の(10a)では「一ろ」が使われ、男性の発話であることが表れているものの、年齢層を予測するには若干無理がある。一方、韓国語訳本での文末語尾「-쇼」は「-시오」の縮約形で、韓国語の対者敬語法の一つである「하오体」に尊敬の先語末語尾「-시-」を付け加えた形である。

「하오体」について、李翊燮他(2004)につぎのような記述がある。

하오体は、今日その生命力をほとんど失った状態にある。今やこの言い方を使う人はごく一部に過ぎず、若い世代になればなるほどその数は減っている。(中略)さらに하오体は하개体と同様に格式性が表れる言葉遣いである。(中略)権威主義や格式性を嫌う新しい世代にとって하오体が退潮の道を歩んでいくのは自然な趨勢だと言わねばならないだろう。(pp. 255-256)

すなわち、(10b)では文末語尾として「하오体」の「-쇼」が使われることで、年齢層の高い人物の発話であることが表現されているのである。同じ箇所の同じ内容の発話でも、役割語的な要素が異なることによって、日本語では性別が、韓国語では年齢が強調されるという異なる結果となっているのは非常に興味深い。以下の(11)(12)の例も、原作の日本語の発話では文脈でしか年齢層が連想できないのに対

し、訳本の韓国語の発話では「-쇼」「-개」といった「하오体」「하개体」の形式を用いることで発話者が中高年層であることを暗示している。

- (11) a. その根拠をお聞かせ願いたい. 「ブラック」
 b. 어떤 근거로 그러는지 듣고 싶소. 「블랙잭」
 (12) a. すぐに辞表を書きなさい. 「ブラック」
 b. 당장 사표를 쓰게! 「블랙잭」

以上、日本語原作の対訳作品において、役割語の中で年齢がどのように表現されているかを考察した。これについては、3.2でもふたたびふれることにする。

三つ目に、役割語としての方言についての考察である。都川典子(1994)には、訳本での方言使用について、つぎのような記述が見られる。

訳本において用いられた方言がどこかの地域方言の特徴に相当する場合、その地域方言に対して抱かれているステレオタイプ的なイメージが読者の中に呼び起こされ、それが作品中の人物像に適用されるという相乗効果を読者は期待した上で、方言使用を行っているのではないだろうか。(p. 90)

以下に、日本語原作で関西方言が使われている発話を取りあげる。

- (13) a. ボッと見とらんで助けてえな! 「モンスター」
 b. 보고만 있지 말고 나 좀 살려 주라개! 「몬스터」
 (14) a. その2匹使いいな. 「モンスター」
 b. 그 포케몬들을 쓰라개! 「몬스터」

日本語の関西方言に対応する韓国語訳をよく観察してみると、標準語ではなく「-랑개」という全羅道方言の特徴を用いていることがわかる⁴⁾。関西方言が持っているステレオタイプ的なイメージを訳本でもできるだけ生かそうとする意図が見受けられる。

関西方言のイメージについて、井上史雄(1980)の「知的+/-、情的+/-」評価では、情的イメージがプラス、知的イメージが中立という結果となっている。つまり、関西方言は「親しみやすい」と「知

的とはいえない」というイメージが強いようだ。果たして韓国の全羅道方言が日本の関西方言と同じようなイメージを与えているのかということについて、韓国語で同様の調査が見あたらないために、現時点で判断することは難しい。

しかし、2. の意識調査の結果によれば、日本語母語話者にも韓国語母語話者にも、異質な人物像に方言を当てはめる傾向が同じく見られるのは確かである。よって、方言を方言に訳すことで標準語とは異なる役割を果たしていることは明らかであり、日本語母語話者にとっても韓国語母語話者にとっても、方言は人物像を連想する重要な要因となっているため、十分役割語的な要素として働いていると考えられる。

ここでもう一つ言及しておきたいのは、訳本での方言形式の不一致性である。

- (15) a. なんや、おるやないけ。 「モンスター」
b. 왜 거기 있잖아! 「몬스터」
(16) a. いきなり調子悪うなってしもうた! 「モンスター」
b. 이거 또 고장났구먼! 「몬스터」

(15)(16) は、上記の (13)(14) と同じ発話者の発話である。しかし、(15b)(16b) の韓国語の発話は、上記の 2 例と違って必ずしも全羅道方言とは言いきれない⁶⁾。このような脚色された方言形式は「普遍的方言」と呼ばれる。これに関連して、木下順二(1982)では、つぎのように述べられている。

いろんな地方のことばの中からおもしろい効果的なことばを拾ってきて、自分の感覚によってそれらを組み合わせませざ合わせたということになります(後略)。(p. 273)

本資料の中でも原作での関西方言を訳すのにいくつかの方言形式を混用しており、このことから、翻訳過程における「普遍的方言」という手法の存在を確認することができた。

以上、日本語原作の対訳作品において、役割語としての方言がどのように表現されているかを考察した。

3.2 韓国語原作の対訳作品での役割語

ここでは、韓国語原作の漫画が日本語訳される場

合、役割語にどのような傾向が見られるかを見ていく。ここで取りあげる役割語考察の観点とは、「年齢」と「時代」の二つの側面である。

一つ目に、役割語の中の年齢についての考察である。3.1 でもふれたように、韓国語の役割語でもっとも特徴的なのは「年齢層を表す形式」だと考える。

- (17) a. 가르쳐 주게. 「세일즈」
b. 教えてくれ. 「セールス」
(18) a. 이거 세탁비로 쓰게. 「세일즈」
b. これはクリーニング代にしなさい. 「セールス」

(17a)(18a) は、表 3 の韓国語の敬語法にもとづいていえば「하게체」の命令文である。これに関して、李翊燮他(2004)につぎのような記述がある。

하게체는話者の権威を誇張するような感じを醸しだし、その分格式性が強いという特徴がある。そのために年齢を十分にとらないと하게체를使うのが気恥ずかしく感じられる。(中略) 近来、次第に人々は権威主義、格式性などを遠ざけ、自由に気取らない雰囲気を好むようになってきたが、このような変化が自然に하게체를若い年齢では使いにくくしていると解釈するのである。하게체는女性話者にはあまり使われないが、これも女性が男性に比べ、権威主義を遠ざけるためだと見なければならぬ。

つまり、文末語尾に「-게」が使われることで「中高年男性」という人物像を連想することができるため、これらは十分役割語的な要素として機能していると考えられる。その反面、(17b)の日本語訳「一れ」では、性別は判定できるとしても年齢層まで推定するのは難しい。さらに、(18b)の日本語訳「一なさい」では、ある程度年齢層は限定できるとしても性別が曖昧になってしまう恐れがある。

以上、中高年男性が多用されると言われる命令文の文末語尾として「-게」を取りあげた。つぎに、中高年女性に特徴的に見られる命令文の文末語尾の例をあげると (19)(20) のようである。

- (19) a. 전화도 좀 넣고 하렴. 「연인」
b. ちゃんと電話することよ. 「恋人」

(20) a. 어서 씻고 좀 쉬렴. 「연인」

b. お風呂入っておやすみなさい. 「恋人」

韓国語原作(19a)(20a)では文末語尾「-렴」が用いられている。これは、中高年女性が用いる命令文に多く見られる形式である。これに対応している日本語訳は「—ことよ」「—なさい」である。「—ことよ」で中高年というイメージまでを引き出すことは難しいかもしれないが、全体として「中高年女性」という人物像にうまく合致した語尾選りであるとは判断できるのではないだろうか。

以上、韓国語原作を日本語訳する際に、役割語の中で年齢がどのように表現されているかを考察した。

二つ目に、役割語の中での時代についての考察である。日本語にも韓国語にも、時代を表す独特な言葉づかいは、顕然たる役割語として存在している。ここでは、まず、時代を連想する役割語的な特徴が韓国語原作の文末形式にどう表れているかを考察し、それらが日本語へ翻訳される過程で、その時代性がどの程度反映されているかに注目する。

(21) a. 실례하옵니다. 「비천무」

b. 失礼します. 「飛天舞」

(22) a. 누가 탐탁히 여기리까. 「비천무」

b. 誰が…好ましく思いますか. 「飛天舞」

(21)(22)は中国戦国時代を舞台とした漫画の中で、貴族の娘という設定の登場人物の発話である。韓国語原作での文末形式「-옵니다」「-리까」は、現代韓国語ではほとんど使われることのない古い形式であり、明らかに時代を表す役割語として働いている。さらに、この表現は丁寧で気品があり、身分の高い人物の言葉づかいであることが伝わってくる。しかし、日本語訳では「マス体」を使って丁寧な言葉づかいにはなっているものの、原作で表現されている古風なイメージは伝わってこない。つまり、日韓翻訳の際、日本語訳では時代性を表す役割語をそれほど積極的に取り入れていないといえる。以下の例でも同様のことがいえる。

(23) a. 피리는 불지 말라 했거늘 또! 「비천무」

b. 笛なんか吹くなといわれてるんでしょ
う. 「飛天舞」

(24) a. 네 이놈, 필시 흥적이렀다? 「비천무」

b. こいつ、紅賊に間違いないな?

「飛天舞」

韓国語原作の(23a)(24a)では、「-했거늘」「필시-이렀다」のような表現が古めかしさを感じさせるのに対して、日本語訳の文からはこのような時代的なイメージはまったく読みとれない。このことから、時代性を反映した韓国語役割語の日本語訳は、原作とかけ離れてもっぱら現代風に訳される傾向にあると考えられる。

時代を表す役割語をどう翻訳すれば、その人物が持つ時代性を訳本でもうまく伝えられるかというのは、これからの課題といえる。なお、日本語原作の韓国語訳でも同様の傾向が見られるかどうかについては、さらに裏付け調査が必要であろう。

以上、韓国語原作の対訳作品において、役割語としての時代性がどのように表現されているかを考察した。

4. ま と め

以上、日本語と韓国語の役割語について、対訳作品に見られる翻訳上の問題と絡み合わせて、対照・考察を行った。

まず、2.の意識調査の結果によって、以下の3点が明らかになった。

- 1) 人物像と言葉づかいの組み合わせにおいて日本語母語話者の正解率が高いことから、韓国語に比べ日本語のほうに役割語としての文末形式が発達していることがわかる。
- 2) 日本語母語話者の場合、韓国語原作の日本語訳本での正解率が非常に低いことから、訳本では日本語の役割語の知識が十分生かされていないことがわかる。この結果から、韓日翻訳の際に、役割語についての配慮が足りないことが予想される。
- 3) 韓国語母語話者の場合、原作と訳本の間に正解率の差がほとんどないことから、もともと役割語への刷り込みが弱く、翻訳による影響をそれほど受けないことがわかる。この結果から、日韓翻訳の際に、日本語の役割語の特

性が薄れてしまう恐れがあると考えられる。つぎに、3. の対訳作品の考察によって、以下の4点が明らかになった。

- 4) 同一箇所であっても対訳作品の言葉づかいから受けるイメージは、両言語の間で必ず一致するものではない。
- 5) 日本語役割語では性別的な特徴、韓国語役割語では年齢的な特徴が表れやすい。
- 6) 日本語でも韓国語でも、方言は人物像を連想する重要な指標となり、十分に役割語的な要素として働いている。
- 7) 時代を連想する言語形式は翻訳の過程で現代風に訳されやすく、訳本の中で役割語的なイメージがぼやけてしまう傾向がある。

以上のように、本稿では日本語と韓国語の役割語に対する両言語母語話者の意識差と、対訳作品から見る両言語の役割語の相違点について整理した。しかし、現段階で示した結論は、まだ本研究の必要性を提起するための現状報告に過ぎないとする。したがって、本稿の初頭で言及したように、両言語間の翻訳の質の向上とより原作に近い翻訳への進展という最終的な研究目的を達成するために、今後の課題は多い。

まず、出版物の他に映像物などを含む広範囲での「役割語」の考察を続けていくべきである。また、とりわけ韓国語の中で「役割語」を生み出す具体的な言語現象に、文末語尾のほかにどのような形式があるのかをより細かく提示していく必要がある。このように、日韓・韓日翻訳上での「役割語」翻訳の問題点を追求しつづけることで、新しい発見が得られ、これらの発見が「役割語」翻訳の不備によって生じる原作と訳本の間での心的ギャップを解消し、よりリアルな翻訳へと進む原動力となるのである。

注

- 1) これに関連して金水 (2000) では、「役割語は日本語独特の現象とも考えられない。おそらく、高度な大衆メディアの存在する文化圏には、多かれ少なかれ、役割語に類似した現象が見られるはずである。そのような海外における事例の収集、先行研究の調査、日本語の場合との対照なども必要と考えるが、

すべて、今後の課題である。(p. 347)」と述べられている。

- 2) 表2に示した各イラストは出版元の許諾を得て掲載しており、著作権に違反するものではない。
- 3) この根拠は、鄭 (2003) での調査結果にもとづいている。
- 4) 李翊燮他 (2004) では全羅道方言の特徴について、「語末語尾-ㅇ계はこの方言の顔であると言ってもよく、この方言を最も直接的に代表する形態である。(中略) 前に来る言葉によって땅계, 당계, -ㅇ계/-옹계などとして現れ、これらの後に가が再びつくこともある。(p. 321)」と述べられている。
- 5) この判断については、全羅道方言話者2名、忠清道方言話者2名に聞き込みを行ったところ、「全羅道方言というより、忠清道方言形式に近い」との内省を得た。

分析作品一覧

(下線部は本文中の略号である。)

- 青山剛昌『名探偵コナン2』, 小学館, 1994.
 神尾葉子『花より男子2』, 集英社, 1993.
 佐藤秀峰『ブラックジャックによろしく2』, 講談社, 2002.
 高橋留美子『犬夜叉18』, 小学館, 2000.
 真斗・日下秀憲『ポケットモンスター スペシャル1』, 小学館, 1997.
 藤子・F・不二雄『ドラえもん2』, 小学館, 1974.
 金恵琳 (文享寛他 訳)『飛天舞1』, タイガーブックス, 2001.
 朴山河 (文享寛他 訳)『ウルトラブブン1』, タイガーブックス, 2001.
 韓丞媛 (文享寛他 訳)『あなたの恋人1』, タイガーブックス, 2001.
 許英萬 (文享寛他 訳)『セールスマン1』, タイガーブックス, 2001.
 梁榮淳 (文享寛他 訳)『ヌードルヌード1』, タイガーブックス, 2001.
 김혜린『비천무1』, 대원문화출판사, 1997.
 박산하『레드볼볼1』, 시공사, 2000.
 한승원『그대의 연인1』, 대원문화출판사, 1995.
 허영만『세일즈맨1』, (주)서울문화사, 1995.
 양영순『하드코어 누들누드1』, 소담출판사, 2000.
 Gosyo Aoyama (이희정 訳)『명탐정 코난2』, 서울 문화사, 1997.
 Yoko Kamio (조영희 訳)『꽃보다 남자2』, 서울 문화사, 1997.
 Syuho Sato (박련 訳)『헬로우 블랙잭2』, 서울 문화사, 2003.
 Rumiko Takahashi (서현아 訳)『이누야샤18』, 학산 문화사, 2002.

- Hidenori Mato・Kusaka (김혜정 訳) 『포켓 몬스터 스펀셜 1』, 대원 씨아이, 1999
후지코 F 후지오 (박종윤 訳) 『도라에몽 2』, 대원 씨아이, 1995

【引用文献】

- 李翊燮 他 2004 韓国語概説 大修館書店
井上史雄 1980 方言のイメージ 言語生活, 341.
木下順二 1982 日本語の世界 12 戯曲の日本語, 中央公論社
金水敏 2000 役割語探求の提案 佐藤喜代治(編) 国語史の新視点 国語論究 第8集 明治書院, pp. 311-

351.

- 金水敏 2003 もっと知りたい日本語 ヴァーチャル日本語 役割語の謎 岩波書店
鄭惠先 2003 日本語人称詞の社会言語学的研究 大阪府立大学 博士学位論文
都川典子 1994 翻訳に見る方言イメージの活用技法 東京女子大学言語文化研究 3, pp. 90-101.

(2004年9月30日受付)

(2005年6月4日修正版受付)

(2005年6月27日掲載決定)